

【ねがいましては】

第34号

共和珠算塾 新浜

平成3年4月25日

最近ちょっと気になった本があります。灰谷健次郎さんの「優しさとしての教育」という本です。その中に、ある二人の子どもに対する接し方が載っていました。

ひとりは学校の集団検診での医師、もうひとりは記念写真を撮ろうとした写真屋さん。

ひとりの障害児に対するお二人の接し方に自分自身「ハッ」とさせられた次第です。

医師の方は耳鼻科検診の時、その子の腕をつかんで自分の前へ引き寄せたのです。その子は激しく泣き始めた。写真屋さんの方はストロボをたいたために激しく泣きだした彼のところへ歩み寄って何やら話を始め、やがて機嫌を直した彼は、みんなと肩を組んで写してもらった。

腕をつかんで引き寄せたお医者さんと、自分から歩み寄った写真屋さん。このシーンが私にはジーンときてしまったのです。

「忘れないようにしなければ」自身に言い聞かせました。つつい忘れがちになってしまうこと。今日は疲れてるなー。今日はちょっとカゼ気味で調子が出ないな。そんな時、子どもたちの心を傷つけていないのかと、改めて反省しました。

先日、ひとりの教え子から手紙が届きました。今年高校3年になった彼女には、お母さんや親せきの方に学校の先生が多く、私はよく「君も絶対に先生になるしかないよ」などと冗談を言ったりしていました。その彼女が今年の6月にアメリカにホームステイに行き、その後、彼女の心中に変化が起こったことが綴られていました。

『私はアメリカに行く前まで進学について悩んでいました。教師になることは夢でしたが、なんだか高校に行ってみて教師になっていったい何をしたらいいのかわからなくなってしまったためです。他にも進みたい道もたくさんできたためかもしれません。(以前は絶対教師にはなりたくないとも言っていましたね)けれども留学してみてやはり教師を目指していこうと思いました。教師になって国際的な指導をしたいと思いました。できれば将来世界の子どもたちに全世界共通の何かを教えていけたら……。アフリカなどの貧しい子どもたちや体の不自由な子どももみんな、安心して同じような教育を受けることが出来る世の中になれば、私の夢はかなうのですが……。

国際的なアメリカでさえ貧しい人はたくさんいて、私が行ったのはお金持ちの家庭でした。が、ほかには満足な教育を受けていない人もたくさんいるそうです。

私は随分と幸せなのだと思います。だから大学進学への目的ができた今、親が行かせてくれるのなら、私はがんばって大学に入りたいと思います。そして教師になって自分の得た知識を子どもたちに伝えていきたい。それから言葉や国境を越えて教えられることがあるはずだから、先はまだまだ厳しくて、目の前には壁が立っていて、四苦八苦している私ですが、負けずに先生の励ましに応えられるよう努力して夢を叶えたいと思います。世界共通のこと、それは平和の尊さだと私は考えているのですけれど……。』

彼女の心の広大さに、ただ感心するばかりです。がんばれ！Mちゃん。

5月の予定

連休中の授業はカレンダーの通りです

11日(土) 第223回検定試験申し込み締め切り

25日(土) 4～10級検定試験・・・共和珠算塾

26日(日) 3級以上検定試験・・・中央商業高校・受験票・ぶんちん・いつもの道

クイズ・・・駅まで行くのに歩いていくと発車時刻に5分遅れるので、自転車で行ったら発車時刻の7分前につきました。1キロメートルに行くのに歩けば15分、自転車なら5分かかります。駅まで何キロメートルですか。

(おとうさん、おかあさんといっしょに考えましょう)

正解で先着10人に記念品を差し上げます